

国語科学びづくり案

福山市立霞小学校

- 1 日時 2025 年（令和 7 年）10 月 31 日（金）
- 2 学年 第 6 学年 1 組（32 名）
- 3 単元名 宮沢賢治の作品の世界を捉え、自分の考えを書こう
「やまなし」「イーハトーヴの夢」（光村図書）
- 4 単元について

（1）教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）国語 第 5 学年及び第 6 学年〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと（1）エの指導事項「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」を受けて設定している。本単元の教材は、文学的な文章「やまなし」と、資料として作者の宮沢賢治の生涯が紹介された文章「イーハトーヴの夢」から構成されている。「やまなし」は、小さな谷川の「五月」と「十二月」の様子と、谷川の様子以外の前書きとあとがきにより作品が構成されている。宮沢賢治独特の色彩やオノマトペを多用し、「五月」と「十二月」の幻灯を対比させながら描かれており、表現の効果を考えることに適した教材である。しかし、ただ読んだだけでは、「水の中の世界はきれい、こわい」「なんだかよく分からない」という感想に終始してしまうことが予想される。

そのため、物語の世界を味わう手がかりの一つとして、「イーハトーヴの夢」を読むことにより、宮沢賢治の生き方や考え方と結び付けながら「やまなし」を読み進めることが可能となると考える。

（2）児童観

本学級の児童は、第 5 学年の「たずねびと」「大造じいさんとガン」第 6 学年の「帰り道」と、文学的な文章の学習を積み重ねてきた。その中で、叙述に基づいて登場人物の行動や会話、場面の様子などを読み取りながら、人物像を具体的に想像したり、情景描写などの表現の効果について考えたりしてきた。しかし、物語の内容を直接的な表現をもとに大筋で捉えることはできるが、言葉の意味やつながりを考えながら読むことが難しいため、登場人物の相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることが苦手な児童もいる。また、物語を読んで自分の考えを書いたり、友達に進んで発表したりすることについては、「あまりできていない」「自信がない」と感じる児童も 38% と多い。全国学力・学習状況調査では、「読むこと」において、文と文、言葉と言葉を結び付けて読むことに課題が見られた。

（3）指導観

本単元では、児童が「物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる」ように、「やまなし」「イーハトーヴの夢」「宮沢賢治の物語」を読むことを通して、「宮沢賢治の作品の世界を自分なりに想像したことを話し合おう。」という学習課題を設定した。そのために、並行読書として宮沢賢治の本を読む活動を行い、第 10 時には、「やまなし」の読みの学びをもとに、それまでに読んだ本の中から一冊選んで、自分が解釈したことを表現したブックカードを作成し、紹介し合う活動を設定した。友達と交流することで自分とは異なった考えに触れ、自分の読みとの違いを比較させることで、そのおもしろさにも気付くようにさせたい。

「やまなし」を読み進める際には、叙述から情景を想像して絵に表し、叙述のどのような部分からその絵を表したのか、友達と交流するようにする。それによって、物語の全体像を具体的に想像して捉えながら自分の考えをもち、さらに友達との対話を通して考えを広げることができる。また、宮沢賢治の独特な表現（色彩、オノマトペ、比喩）に線を引き、それらの言葉や表現から想像した情景や感じたイメージを吹き出しなどで「五月」と「十二月」の絵に書き込み、全体で共有することで、様々な文章表現や描写、それによって表される様子に気付けるようにする。

学校図書館の活用については、物語を読むことが好きな児童は 60%と多いが、国語科の学習で学んだ内容や作者に関連する本を読んだことがある児童は 12%と少なく、国語科の学習と読書を切り離して考えている児童が多いことがうかがえる。本単元において、宮沢賢治の並行読書を行うことで、物語を読むことの楽しさや、国語科の学習と読書をつなぐことの良さに気付かせていきたい。

5 本単元の目標と評価規準

(1) 本単元の目標

- 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。【知識及び技能】(1) ク
- 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】C (1) エ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚にして思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準 () 内は鷹取中学校区育成する力(資質・能力)

知識・技能 (知識・技能)	思考・判断・表現 (課題発見・解決力)	主体的に学習に取り組む態度 (主体性)
① 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	① 「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	① 表現や構成に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。

6 単元計画 (全 11 時間)

次	時	学習活動	学校図書館活用のポイント	評価規準
0		○「やなせたかしーアンパンマンの勇気ー」と絵本「アンパンマン」を読み、作品には作者の思いや願いが込められていることに気付く。	・やなせたかしに関する本を読む。	

一	1	○やまなしの範読を聞き、初発の感想を交流する。	・宮沢賢治の文学作品の本や伝記を教室に置き、並行読書を行う。	
	2	○内容を整理し、文章全体の構造をつかむ。		
	<div>【学習課題】</div> <div>宮沢賢治の作品を読んで、作品の世界を捉え、感じたことを話し合おう。</div>			
	3	○「五月」の幻灯について読み取る。		・ 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(ノーノ・発言)【知①】
	4	○「十二月」の幻灯について読み取る。		
	5	○二枚の幻灯の違いを考える。		
	6	○資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方、考え方について気付いたことを生かして「やまなし」を再度読む。		
	7	○「やまなし」を読んで感じたことをまとめる。		
二	8	○自分が選んだ宮沢賢治の本についての解釈をまとめる。	・宮沢賢治の本を読んで感じたことをブックカードにまとめる。	・ 表現や構成に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。(ノート・発言)【主①】 ・ 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(ノート・発言)【思①】
	9 (本時)	○自分が読んだ本の解釈を交流する。		

10	○交流したことをもとに、自分の考えをまとめ、共有する。		
11	○学習のまとめをする。		

7 本時の目標

宮沢賢治の作品を読んで感じたことを交流し、作品の捉え方や自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

8 本時の展開（9／11時）

展開	◎学習活動 ・予想される児童の反応	○指導上の留意事項	◆評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	◎本時の学習課題を確認する。 ㊟宮沢賢治の本を読んで想像したことを話し合おう。	○本を読んで想像したことを根拠をもって説明するよう確認する。	表現方法の指導
展開 (30分)	◎宮沢賢治の本を読んで想像したことを交流する。 ・「オツベルと象」を読んで考えると、宮沢賢治はいつも「命の大切さ」を伝えていると思った。自分も命を大切にしようと思った。 ・「やまなし」に込めた思いは、「自然に死ぬことの良さ」だと思ったけれど、自分が読んだ「銀河鉄道の夜」と合わせて考えると、「生きていることの喜びや尊さ」を伝えていると思った。宮沢賢治は、つらいこともあるけれど、生きていることの喜びも知っていたんだと思う。 ・宮沢賢治は、「やまなし」や「雨ニモマケズ」で、「自然の中で自分らしく生きることの美しさ」を伝えていると思った。なぜかという、「雨ニモマケズ」で宮沢賢治は自分の理想的な生き方を書いていて、それが自然にカニに恵みを与える「やまなし」と似ているから、宮沢賢治は「やまなし」でも	○「イーハトーヴの夢」の内容をキーワードで提示し生き方や考え方を比較できるようにする。 ○これまで読んだ作品と関連づけて考えられるようにする。 深く考える仕かけ	学校図書館活用のポイント 児童が並行読書で読んだ本を教室に掲示する。 ◆物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしてい

	「雨ニモマケズ」でも、自分の理想の世界を表現していると思う。宮沢賢治の生きた大正時代は、今よりも病気や戦争で死ぬ人が多かったからこそ、自然の中で生き生きと暮らす生き物や人の話を書いたんだと思った。		る。(ノート・発言)【思①】
終末 (10分)	◎本時のまとめをする。	○交流を通して児童が自分の言葉でまとめる。	
	③ 宮沢賢治は、大切な妹を失ったり、農業の発展に尽くしたりする人生の中で、「生きることや命を奪われることの苦しみ」を感じながらも、「命の大切さ」や「生きていることの喜びや尊さ」を様々な作品を通して伝えていると感じた。		
	◎ふり返りをする。 ・宮沢賢治の物語は、「やまなし」と同じように様々な色の表現やオノマトペが使われていることが分かった。 ・友達は、宮沢賢治の本を読んで「生きていることの喜びや悲しみ」を感じていて、自分の読んだ本からもそれが感じられた。 ・宮沢賢治は物語だけでなく、詩も書いているので、読んでみたいと思った。	○ふり返りの観点を提示して書かせたものを交流する。	学びをつなぐふり返り

9 板書計画

